

環境ワーキンググループの進め方 について

平成25年12月26日
環境ワーキンググループ事務局

環境ワーキンググループのねらい

- 基礎研究から、応用・システム化技術の開発まで、出口戦略を明確にした議論を通じて、関係する機関すべてが目的・目標を共有し、研究成果を効果的かつ迅速に社会実装につなげる
- 環境分野を俯瞰し、目指す社会像の実現や社会ニーズなどの様々な観点から、今後取り組むべき課題の検討を進め、グローバルな競争に打ち勝てる技術や政策の導入を図る

構成員およびサブテーマ

五十音順

(※)環境ワーキンググループ座長

氏名 (敬称略)	所属	専門	サブテーマ					
			地球 観測	気候 変動 予測	気候 変動 対応	資源 循環	水環 境	土壌 環境
今中 忠行	立命館大学 生命科学部 生命科学部長	環境バイオテクノロジー				○	○	○
今村 聡	大成建設株式会社 技術センター 副センター長	地下水・土壌浄化			○	○	○	○
大矢 俊次	水ing株式会社 技術・開発本部 技術開発統括 副統括	水処理			○	○	○	
沖 大幹	東京大学 生産技術研究所 教授	水資源 気候変動	○	○			○	
住 明正 (※)	独立行政法人 国立環境研究所 理事長	気象学 気候力学	○	○	○			
高村 典子	独立行政法人 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター センター長	水環境 生物多様性保全 生態系管理			○		○	
森口 祐一	東京大学大学院 工学系研究科 教授	都市工学 環境システム工学			○	○		
安井 至	独立行政法人 製品評価技術基盤機構 理事長	環境リスク評価	○	○		○	○	
山地 憲治	公益財団法人 地球環境産業技術研究機構 理事・研究所長	環境問題に関するモデル分析		○	○	○		

環境ワーキンググループが検討する課題領域について

第4期基本計画（グリーンイノベーション分野）

環境エネルギー技術革新計画

メタン等削減技術
植生による固定
温暖化適応技術

資源再生・循環技術

環境汚染のリスク評価・対策

水処理技術・水資源管理技術

H24～H26AP特定施策

総合戦略（エネルギー分野）

環境調和型製鉄プロセス、希少金属代替技術

総合戦略（次世代インフラ分野）

地球観測・気候変動予測

自然災害の軽減

自然環境・生物多様性の保全

地球観測の推進 戦略

具体的には

地球観測・気候変動予測・気候変動対応・資源循環・水環境・土壌環境

議論の進め方について

① 第4期科学技術基本計画レビュー

◆ 評価指標および評価、今後の取り組みについての議論

- 第4期科学技術基本計画レビューに係る技術評価方法について、各構成員へ指標値の検討依頼を実施する（第1回）
- 第2回までに各構成員に対応するサブテーマに関する技術の指標値等を検討し、結果を調査委託へ反映する。その後、調査委託中間報告を受けてさらに議論を進め、最終報告へつなげる（第2回）

② H26年度アクションプラン(AP)特定施策のレビュー

◆ 施策推進のための方策・留意点の助言

- 環境ワーキンググループで担当するA Pについて担当省庁に出口戦略の明確化、施策推進に主眼を置いたプレゼンを実施していただき、施策推進に当たってのキーポイント（注力する技術、補足すべき技術開発、整理すべき規制等）について議論し、取りまとめる（第2回）

③ 今後取り組むべき課題

◆ 課題の抽出・整理

- 今後取り組むべき課題や取り組みについて、対応するサブテーマを中心に事前に書面にて意見だしをしていただき、それをもとに議論する（第1回）
- 第1回での内容を受け、環境分野において具体的に取り組むべき事項について議論・整理を行う（第2回）

環境ワーキンググループ 今後のスケジュール

回数	予定日時	① 4期計画レビュー (検討対象：別添1)	② H26APレビュー (検討対象：別添2)	③ 今後さらに取り組むべき課題
第1回	12/26(木) 16:00-18:00	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 4期計画レビューの技術評価方法について依頼 ◆ 第2回までに、調査委託（一次案）を元に指標値を検討→検討した指標値は調査会社へ共有 		<ul style="list-style-type: none"> ● 環境分野において検討すべき課題・取組みについての議論
第2回	2/6 (木) 16:30-18:30 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 調査委託中間報告→会議後、議論結果を速やかに反映し、共有 	<ul style="list-style-type: none"> ■ H26AP状況説明と推進に向けた議論・助言 <p>【地球環境観測の強化、革新的地球環境研究、水質事故に備えた危機・リスク管理】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回を受けて、環境分野において具体的に取り組むべき事項についての議論
第3回	2/28 (金) 16:00-18:00 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 調査最終報告 ◆ H25年度環境ワーキンググループ検討結果・助言とりまとめ（案）に関する議論 		

【別添 1】環境ワーキンググループでの検討対象（4期基本計画）

◆ 環境ワーキンググループが所掌する4期基本計画の課題領域は下表のとおりである（※）

Ⅱ. 3 グリーンイノベーション	(2) 重要課題達成のための施策	iii) 社会インフラのグリーン化 高度水処理技術を含む総合水資源管理システム 地球観測・予測・総合解析技術等
	(3) 推進のためのシステム改革	技術等成果の海外展開促進 気候変動対応に関する技術移転とシステム改革を総合的に推進
Ⅲ. 2 重要課題達成のための施策の推進	(1) 安全かつ豊かで質の高い国民生活の実現	i) 生活の安全性と利便性の向上 大気、水、土壌における環境汚染物質の有害性やリスクの評価、管理、対策
		ii) 食料、水、資源、エネルギーの安定的確保 効率的、循環的な利用 廃棄物の抑制や適正管理、再利用
	(3) 地球規模の問題解決への貢献	i) 地球規模問題への対応促進 生態系に関する調査や観測、外的要因による影響評価、その保全、再生循環的な利用

（※）詳細は別紙参照（ピンクで色掛けした部分）

【別添2】環境ワーキンググループでの検討対象（H26年度AP）

◆ 環境ワーキンググループで検討対象となるH26年度APは下表のとおり

・連携施策

管理番号	施策名	実施府省	AP特定分野	備考
次・環02	衛星による地球環境観測の強化	環境省	次世代インフラ	
次・文09	防災・減災機能の強化に向けた地球観測衛星の研究開発 ・温室効果ガス観測技術衛星2号（GOSAT-2） ・気候変動観測衛星（GCOM-C）	文科省	次世代インフラ	責任府省：環境省

・個別施策

管理番号	施策名	実施府省	AP特定分野	備考
次・文11	「フューチャー・アース」構想を受けた革新的地球環境研究の推進	文科省	次世代インフラ	
次・環01	水質事故に備えた危機管理・リスク管理の推進	環境省	次世代インフラ	